

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題 (めざすべき姿)	社会的弱者が不安なく歩けるよう、バリアフリーが施設や道路に行き届いている		年度	平成28年度	
	施策名	バリアフリーのまちづくりを推進する	No.45	責任部長	まちづくり部長
				主担当課長	都市計画課長
				関係課	建築住宅課、道路課、公園緑地課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
社会的弱者やその家族が安心して外出できると思う人の割合(%)	→	16.1	13.4	15.6	16.2	16.1	16.1	23.5
		16.1	17.4	19.8	20.4	21.4		31.1
バリアフリーに対応している公共建築物の累計(施設)	→	—	—	—	—	—	—	—
		12	15	16	22	23		15
バリアフリーに対応している歩道の整備延長(km)	→	28.48	31.84	34.48	36.02	36.71	37.75	35.23
		37.75	38.08	41.42	43.44	44.61		41.97

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

高齢社会対策や共生社会の実現としてユニバーサルデザインの「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」という考え方に基づいた公共交通機関、建築物、公共施設等のバリアフリー化に対する関心が高まっている。「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(平成18年法律第91号)に基づき、平成18年12月に制定された「移動等円滑化の促進に関する基本方針」が、平成23年3月31日に改正され平成32年度末までに3,000人/日以上の旅客施設をすべてバリアフリー化する等の新たな目標が定められた。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	A 改善傾向	「社会的弱者やその家族が安心して外出できると思う人の割合」は昨年に引き続き増加傾向にあり、更新時期を迎えた施設がバリアフリーに対応した形で整備されていることが影響していると思われる。「バリアフリーに対応している公共建築物の累計」や「バリアフリーに対応している歩道の整備延長」についても着実に実績値を伸ばしており、都市基盤に関する施設整備は年々進んでいると言える。
------	------------------	---

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価			
次年度の改善計画			

***** 市民からみた計画の進捗状況 □ A ■ B ▨ C

